2023年度事業報告書

当協会は、デジタル戦略の中心としてオートレース運営の一翼を担う機関であり、オートレース基幹システム（ASC3）の運用管理事業と新型コロナウイルスが5類に移行した後、アフターコロナの消費行動を見据えて AutoRace. JP 投票の売上向上のための PR を実施した。

さらに、持続的発展を目指し業界で策定した中期基本方針の取り組みを踏まえつつ、オートレースの健全な発展に寄与するため、オートレースに関する調査研究事業、競走車部品の安定供給に関する事業、モーターサイクルスポーツの普及促進事業及び中期基本方針関連事業をオートレース運営支援関連事業として実施した。

また、その他事業として、オートレース運営に係るリース事業、オートレース場外車券発売業務に関する事業を実施した。

1. オートレース支援事業

(1) オートレースに関する調査研究事業

競走車及びその部品等に関し、改良・開発など業界からの要望に対し、調査研究を行う事業であり、今年度は以下の事業を行った。

①事故再発防止

2022年度に川口オートレース場で発生した2件の死亡事故を受け、コーナースピード抑制のためのエンジン出力調整等の検討依頼があり、キャブレターの吸入量調整及びドリブンスプロケット歯数変更(58～60T→62T、低速・加減速有方向)による検証を行ったが、一定の評価が得られたものの、エンジン出力を抑制しても、競走スピードの抑制効果が十分に発揮されないこともあり、2023年度はエンジン出力を落とすこととは別のアプローチとしてギア比の変更を提案し、ドライブスプロケットを18Tから17Tに変更(更に低速・加減速有方向)する方策により模擬レースを含めた走行テストを行った。

結果は、エンジnbr레이크が効くことによる安全性とスピード抑制の効果は示されたものの、一斉変更には舵を切るにはテスト不足であることからドリブンスプロケット変更(58～60T→60T～62T)で再度検討していくこととなった。

②競走車環境対策

JKAとともにオートレース車両のカーボンニュートラル（代替燃料）への取り組みの一環として、E20燃料（エタノール20%含有）使用による競走車エンジンへの影響等について、スズキ株式会社とE20燃料を使用した際の課題とその対応案及び燃料費の試算について調査業務委託契約を締結した。

結果は、E20燃料はキャブレター内部部品及び燃料が触れる部分(燃料タンク等)の腐食対策が必要であること、レース場の燃料貯蔵庫及び供給設備等も改修する必要があること、さらに燃料費としてはオートレースの年間使用量（160kL）で試算したところ2,400円/ℓとなる課題があった

③イグニッションコイル事業終了に伴う代替品の検討

競走車エンジンの補機部品として当協会が備蓄供給している三菱電機製イグニッションコイルについて、同社より製造事業終了の方針が示された。それを受けて同部品の代替品についてスズキ株式会社に検討を依頼したところ、同社の量産車両で使用しているイグニッションコイルが概ねオートレース仕様と合致することが判明したことから、オートレース用に試作したサンプル品を各レース場で走行テストを行うこととなった。

④三角フレーム用ベアリングの切り替え

当協会が検査・販売している競走車フレーム部品のうち、三角フレームに使用しているベアリングについて、受注生産品であることによる製造遅延等により供給が不安定であることから、市場に流通している規格品への切り替えを行うこととなり、それに伴い三角フレームのベアリング取付部(ステアリングヘッド)に小変更を行った試作三角フレームの走行テストを行った。結果については、現行品と同等の評価が得られたことから競走車対策専門委員会へ使用承認を申請することとなった。

(2) 競走車部品の安定供給に関する事業

①備蓄事業

競走車部品で、その特性から特定のメーカーに一括発注しなければ生産の引き受け先がない部品(177品目)について、当協会が最小限の生産ロット数を発注して在庫保管(備蓄)し、必要数量を選手会支部の部品庫に供給する備蓄事業を行い、安定供給に努めた。備蓄部品の販売額は393,293,093円でメーカーからの購入額(仕入額)は344,681,149円であった。

②割賦販売事業

37期新人選手12名にAR500エンジン、36期選手7名にAR600エンジンの割賦販売を行うとともに、前年度に引き続き、割賦代金の回収を行った。

また、ミッドナイト開催等を含めた全開催で回収することのほか、1走あたり4,000円の回収額を8,000円に変更できることも了承され、早期の回収が見込まれることとなった。

③取次事業

ア. 競走車のエンジン・同部品に関する取次事業

選手が、競走車のエンジンを現金で購入する場合及び各レース場の部品庫から競走車のエンジン部品を購入する場合に当協会がメーカーに注文を取次ぐ事業を行った。取次内容は、部品の取次額が248,158,097円であった。

イ. オイルフォーク等の整備に関する取次事業

選手から、オイルフォークの整備依頼及び消音器の補修依頼を受けてメーカーに取次ぐ事業を行った。取次内容は、オイルフォークは7件でその額は183,700円、消音

器は、ナイター用マフラーの修理を含め10件1,238,215円であった。

④その他の事業

競走車及び同部品等の供給に係る苦情を受け付け、その内容を調査（目視検査等）し、その状況に応じてメーカーに取次ぎ苦情処理に努めた。受け付けた件数は41件で、41件の処理を行った。

（3）モーターサイクルスポーツの普及促進事業

モーターサイクルスポーツの普及促進を通じて、広く一般にオートレースのイメージアップを図るため、主に年少者を対象としたミニバイクのキッズバイク初心者教室をオートレース場及び場外車券売場等で実施した。

（4）オートレース中期基本方針関連事業

① AutoRace. JP サイト関連事業

施行者より電話投票業務の委託を受け、基幹システムの運営管理を行うとともに、AutoRace. JP 投票の車券発売額向上に関する事業を施行者、JKA とともに実施した。

- ・ロイヤル化ポテンシャルの高い新規会員獲得と既存会員の売上向上を2軸としたプロモーションを実施した。

- ・昨年度に引き続きケンドーコバヤシ氏を AutoRace. JP 投票のメインビジュアルに起用し、新たにCMを制作し、CS放送や静岡地区の地上波等で放映した他、各オートレース場への横断幕の掲出等、AutoRace. JP 投票の認知度向上を図った。

また、SG開催や新たな銀行決済サービス導入にあわせたWEB広告の実施、新規入会キャンペーンや各種セールスプロモーションを実施し、売上向上を図った。

- ・オートレース公式ファンクラブを運営し、各種キャンペーンを実施した他、会員限定イベントとして、ロッカー見学会やSGレース表彰式への招待等を実施した。

- ・選手表彰式のファン代表を、JP投票会員限定で招待した。

その結果、当協会の電話投票売上額は11,509,645,900円（対前年比93.3%、1日平均電投売上額は対前年比87.8%）であった。

②AutoRace. JP 投票加入者に関する事業

ア. 加入者募集

2023年度の加入者については、ネットバンク会員については、楽天銀行2,532名、PayPay銀行1,867名、三井住友銀行1,268名、ゆうちょ銀行1,886名、決済代行3,281名、キャッシュレス346名合計11,180名の新規会員を登録した。その結果、2023年度末の電話投票会員数は8,860名増の161,672名となり、対前年比105.6%となった。（一般銀行会員6,739名、ネットバンク会員154,933名）

イ. 加入者へのPR

AutoRace. JP 投票会員でオートレース公式ファンクラブにご加入頂いたお客様に対して、AutoRace. JP 投票で車券を購入していただくとマイルが貯まるサービス等を実施した。

③ファン動向調査

2023年4月～6月にかけてお客様の来場頻度や購買動向の実態を捉え、今後の施策やファンサービス等に活用することを目的としたファン動向調査を本場5カ所、専用場外10カ所、AutoRace. JP サイト及び民間ポータル各社のWEBサイト上で実施し、9月末に報告書を取りまとめた。

④AutoRace. JP キャッシュレス車券発売業務

2023年4月6日より、川口オートレース場内にAutoRace. JP キャッシュレス投票所をオープンし、キャッシュレス機器による車券発売業務を実施した。

また、本場のグレードレース開催時にポイント還元キャンペーン、未確定車券抽選会等の販売促進イベントを合計6回実施した。

なお、2023年度新規登録の会員数は、346人であった。

⑤公式重勝式発売事業

2023年10月31日SG第55回日本選手権オートレースより、公式重勝式車券「AutoRace TWO」、「AutoRace THREE」、「AutoRace FOUR」の発売を開始した。

また、2023年10月17日に東京ドームホテルにケンドーコバヤシ氏を起用した公式重勝式発表会を実施した他、重勝式説明動画及びイラスト・アニメーションを使用したWEB動画を制作・公開する等広くPRを実施した。

⑥車載カメラプロジェクト

レース場での運用を考慮した結果、脱着が容易である車番に取り付けられる機材の開発及びカメラの改良を進め、Xacti社製カメラとSONY製スマートフォンを使用した技術検証に協力した。

選手養成所等に於いて新仕様の車番一体型車載カメラの走行テストに帯同し、川口、浜松、飯塚の3レース場で試験運用を実施した結果、安全性等が確保され、全レース場で優勝戦のレース映像を収録（オンデマンド配信）に帯同し、技術面での協力を行った。

2. その他事業

(1) オートレース運営に係るリース事業

小型自動車競走施行者、オートレース場及びオートレース場外車券売場施設を所有する法人等が開催運営に係わる設備（投票関連機器、映像装置、ナイター設備等）を導入する際に、初期費用軽減化のため、当社がその機器等をリースする事業を行っており、今年度は以下1件の新規リースの契約を締結した。

- ・山陽小野田市公営競技事務所（発走合図機・フライング判定装置）

(2) オートレース車券発売業務の受託に関する事業

オートレース場外車券売場設置の促進を目的として、新設する場外車券場に投票端末機器等を設置し、その管理業務に関する受託契約を当該管理施行者と結び、同所での勝車投票券発売業務を行うもので、2018年3月よりサテライト南国（高知県南国市）にオートレース用投票用端末機器（自発払2窓、有人窓口1窓）、オッズ配信用モニタ及び実況配信用モニタを設置し、今年度もその管理業務に関する受託契約を管理施行者となる浜松市と結び、「オートレース南国」として勝車投票券発売業務を実施した。

(3) オートレース基幹システム（ASC3）関連業務

① オートレース基幹システム（ASC3）運用管理等事業

小型自動車競走施行者5施行者より委託を受け、オートレース基幹システム運用管理業務及び車券発売業務を実施した。

年間を通して大きなシステムトラブルもなく、安定稼働した。

② システム開発事業

ミッドナイト開催時間の延長や1日2開催、公式重勝式の発売などに対応するシステム開発を実施し、システムリリースを実施した。

附 属 明 細 書

2023年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2024年 6月

一般財団法人オートレース振興協会